

高齢者の医療費が年々高騰して安心して暮らせるようになってきています。もし高齢者が自己負担が1割になるよ。。。



「風邪の又二郎2000年問題」

作 北北東

配役：

B：又三郎（今年70になる年金暮らしの1階）

H：キンキラ初代（口の達者な看護婦）

K：ゲーシ山本（迷医師）

受付嬢

N：熊本弁のナレーター S：シーン解説

シーン

N：時は西暦2000年 古いコンピュータシステムで作られた世界は暴発寸前であった。1000円預金していた通帳に1000万円の利子が振り込まれたり、キャッシュコーナーからどんどんお札が飛び出してくるのは楽しいことであるが、空には物騒な水爆を搭載したミサイルが飛びまわり、船は陸を走り、車は逆走し、飛行機は空港に着陸出来なくなっている。まあ些細な世間のことはこのくらいにして、肝心の又二郎は風邪を引いてしまいました。明日の老人会の温泉旅行には幼馴染みのタミさんと一緒に行こうと約束をしていたので大変です。

舞台左手から風邪の又二郎（B）登場

S 登場寸前舞台上で咳き込む又二郎

B：「また風邪かな、咳も出るし熱もあるけど、健康友の会の班会で聞いたあの恐怖のインフルエンザじゃなからうか」

N：「独り言をいぶやくその姿はもう重病入だ。昨日の友の会班会のためのシーンの虫歯のポスターの黒い矢を持つたばい菌を思い浮かべているのだが。。あいつが体をすたすたに食いちぎるところ場面が浮かんで心配はますます深くなる。。」

B「寒かし、熱もあるけどけん いっちゅパーマ病院にちやーはひいじーんじ」

S：又三郎は病院の受付にいきなり足どりは重く財布は軽い。その後の姿は寂しいものがある。受付嬢「ここにちは保険証をお出してください。」

N：保険証はこの頃クレジットカード式になってVISAやJCBのマークがはいており自動引き制度で多くのクレジット会社が病院や薬局と契約しており、万が一預金残高がマイナスになった場合、病院からは受診を拒否される仕組みになっている。金の切れ目が命の切れ目なのである。

受付嬢の独り言「クレジット残高 エーと25万円ね。」

診察はOKと、又三郎さんの年齢は・・・エーと73歳ですわ、じゃあ検査も薬も控えめにしてこの通達のある高齢者医療適用って記載しなくっちゃ」

S：そこへ通りかかった顔見知りの看護婦初代（H）

H「あらまたまた又二郎さん、どいなさいました？」

H「じゃ 診察室へどうぞ」・・・・・・舞台右からK医師とHナース登場・・・S素早くほったに口紅を塗って赤くぬりたくる。

K：「ああ、ぢやんしなはったかいた。又二郎さんの顔の赤がバイ、一杯ひっかけてきなさったかな」「どれどれ」

S：脈をとり診察の真似：そして体温計を差し出すK医師 又三郎体温を計る格好、5秒くらいして体温計を取り出しHナースに渡す。

H：「わ またがった（熊本の標準語ではたまがったともいう）・・・先生、45度、こじゃむか。」

K「あーた酒の燗つけたくらい熱だよ、こりゃいかんばい」

K「そりゃよかばってん、うちの体温計は壊れんかったろか」

N 2000年この年から介護保険が開始され、高齢者の医療も介護保険に合わせて1割の自己負担が始まりました。お金の払えない高齢者は病気で減多に病院には掛かれなくなりました。

利用者のいない病院はどんどん倒産していきまる現状で、そのついで銀行の貸し流りで物品購入にも苦労が多いのです。この病院でもつしかなない体温計は貴重な財産なのです。体温計を手にとって「あーよかった」「安心して笑みもこぼれる医師と看護婦」

B：「そいでレントゲンとか検査はして呉れんたですか？」

S：医師 いたって冷静な口調。。

K：「まあ医療費抑制の姿勢だけん高齢者は検査はできないようになつとりますたい。診た感じインフルエンザのついた肺炎とこのようで。。まあ今夜が峠でしょうな」「じゃおだごい」

S 又三郎は困った仕事ですがるまじに医師に問い

B：「峠って あの生死の境ってことじゃあか」

S：又三郎の視線は宙を舞う。。

K：「言てくはくはんこいひいじやあだ。まああー

たも運命と思つてあきらめなつせ、高熱といつて、今流行のAコホンコホン型インフルエンザのこたるですけんな」

B「ああ、タミナと温泉行きの約束しつたのにおあそれも果たせずおれの人生はいつたいなんだつたのだ」

N「思いきりき盾ががつた文句を垂れながら悲嘆にくれる又三郎であります」

B「あきらめられん……病院に入院させてくださいよ、よしてから何とか命は助けてはよ」

K「枯れ木に水をやる医療はするなつて政府の方針があつて、70以上の高齢者については十分な医療はするなつて……。これも高齢者減らつてのこつですたい。選挙でああたたちの選んだ議員さんたちん賛成してできた法律だけん思つ思わんでくだとない」

又三郎と医師の会話「H看護婦が中に割り込む」

H「又三郎さん、金柑の甘露煮と生姜湯はのんどきなつせ、そりゃ効くバイト」

B「そつで直るのこつしよか」

H「そらあ、きんかんときはしょうがなかつたこつしよ」

K「そりゃあなまりきんかんる」
「E」初代看護婦
ケーン 医師退場

「……シーン……」

B「で今日の会計も500円かな、受付嬢」申し訳ありません、いいえね、制度が今日から変わりました、しめて1897万円なつてます」

あらおかしいですね1897円ですかね、えーと、高齢者初診料2000円プラス診察室の人間パーキング料980円と、消費税とあわせてえーと5200円です、あれまでよ、計算が合わなくなつて受付嬢の独り言はまだまだついでいます」

B「ところで人間パーキング料って何な」

受付嬢「はあ、お客様が診察室の椅子に座られてから9分経つておりますので1分100円として先生との会話時間に従つてメータがあがる仕掛けでして、これは10分刻みで福利計算で利子がついております。お客様危なかつたですね」

B「なたてななつてそつなめぬの」

受付嬢「高齢者初診料も高めに設定してありますし、人間パーキングも高齢者対策なんですよ」

B「それが何で高齢者対策になる」

受付嬢「人間パーキングの目的だつて高齢者は話しが

長くなるですよ。だからお金で抑制すると効果ありと上から通達が出てるんです」

B「もうよか年寄りば馬鹿にしてから……ぶんぶた」
「また熱の上がつてきた。わー、もうしょうがなかるはもう帰つて氷枕ばして寝るばい」

S「Bは退場、受付嬢はまだ計算を続けています」

N「2000年問題は医療福祉、窓口の計算まで番狂わせをしてしまいました」

この物語は、ちょっと現実離れた設定なのですが、これに近い未来がもうじき迫りつつあります。せめて目の前にある医療改善には未来の高齢者であるあなたも賛同して頂き、地域で、職場で、班会で広げていきましょー……

ちかじか行われる身近な選挙でもごつか、地域や未来の暮らしまで考えてくれる候補に一票をたくしませよ。出演者全員書信用紙を掲げて再登場……

「あつたな世の中こつこつと書かばあ願ひこます」
おつこ

これを書いて数年を経て2001年に読み返しながら、既に一割は導入済み。今度は五歳繰り上げて高齢者医療を七五歳にしようとして政府は考えています。また一割負担も視野にはいつており、医療・福祉の後遺劇のシナリオは、すでに速度で進行しているのに睡然としている北東であります。